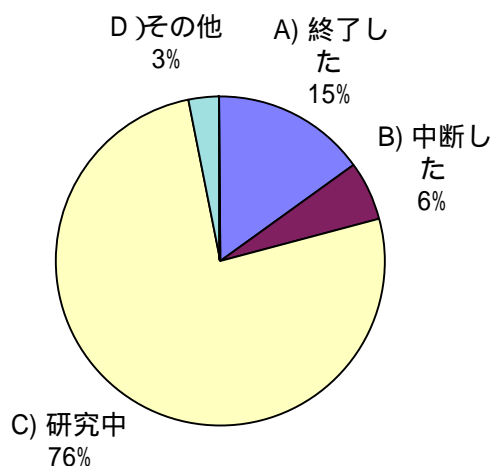


2.2 助成テーマのその後

前回報告では平成10年の時点での平成元年度から平成8年度までの傾向を調べた。今回はこの続きである。前回報告との比較も記載した。

2.2.1 研究活動の現状

選択項目	集計	H13	H12	H11	H10	H9
A) 終了した	5		1		2	2
B) 中断した	2	1		1		
C) 研究中	25	7	6	6	4	2
D) その他	1					1
E) 複数選択	0					
	33	8	7	7	6	5



選択項目	集計%	前回報告%
A) 終了した	15	20
B) 中断した	6	10
C) 研究中	76	63
D) その他	3	3
E) 複数選択	0	4

図表 2.2.1.1 助成テーマの研究活動の現状は？（設問4）と前回報告との比較

平成12年度に未記入が1名あった。平成9年度のD)その他は、職場の移動に伴う一時的な中断であり将来再開の予定とのことである。

やはり C) 研究が圧倒的に多い。前回報告との比較でも 13% 増えている。その分 A) 終了や B) 中断が減っている。調査対象年数が今回は前回報告より 3 年分少ないことを考慮すると順当な傾向であろう。

事由記入欄（設問 5）を考察すると、次の様な状況が窺える。

研究中：

応用研究へ展開 / 新たな問題の発生 / 試作に着手 / 解明中 など研究を続行中

中断：

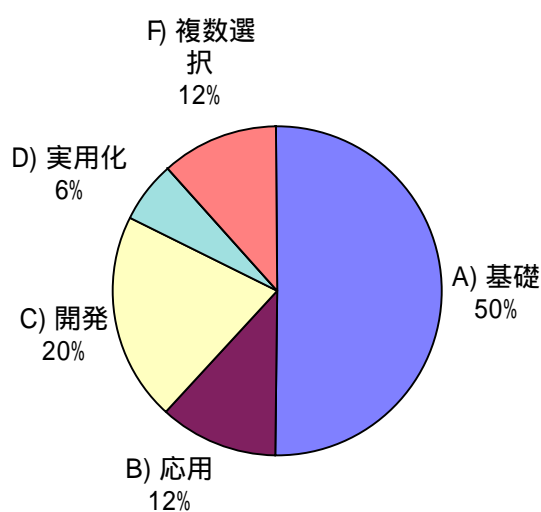
性能評価で十分な効果が得られなかった / 医学系だが研究の進展により工学系や企業の協力が不可欠となり相談中

終了：

一定の成果 結論を得て終了 / 助成テーマを土台として終了し、別要素が加わったものに挑戦中

2.2.2 研究の到達段階

選択項目	集計	H13	H12	H11	H10	H9
A) 基礎	17	6	4	2	2	3
B) 応用	4		2	1	1	
C) 開発	7	1	1	2	2	1
D) 実用化	2			1		1
E) その他	0					
F) 複数選択	4	1	1	1	1	
	34	8	8	7	6	5



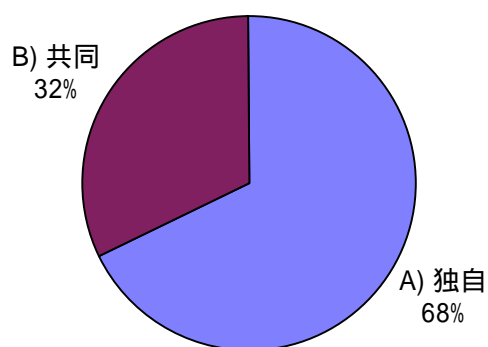
選択項目	集計%	前回報告%
A) 基礎	50	47
B) 応用	12	14
C) 開発	20	18
D) 実用化	6	8
E) その他	0	3
F) 複数選択	12	10

図表 2.2.2.1 助成テーマの研究の到達段階は？（設問 6）と前回報告との比較

研究の到達段階は A)基礎が半数であり、全体の傾向は前回報告と同様であった。大学での研究の軸は基礎研究であることに変わりはない。

2.2.3 取組み体勢

選択項目	集計	H13	H12	H11	H10	H9
A) 独自	23	6	3	5	5	4
B) 共同	11	2	5	2	1	1
	34	8	8	7	6	5



選択項目	集計%	前回報告%
A) 独自	68	76
B) 共同	32	24

図表 2.2.3.1 助成テーマの取組み体勢は？（設問7）と前回報告との比較

前回報告ではB)共同が1/4であったが、今回は1/3近くまで伸びている。提携先としては企業が4件、他の大学が4件、企業と他の大学が2件、不明が1件であった。前回報告の時点では企業との提携は表面に出にくい傾向もあったが、研究分野の横断的な広がりや大学の独立行政法人化も影響を与えながら共同研究への取組みが広がっていると推量される。